
等価値なる過程と結果

枯葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

等価値なる過程と結果

【コード】

N9082J

【作者名】

枯葉

【あらすじ】

エッセイと言って良いでしょう。たぶん。内容はだいたい死生論です。

読みにくい文章であると自覚があるので、これから加筆・修正をしていきたいと思えます。

(前書き)

一番始めに書いたものなので、少し私自身に関わるものになりました。

生きる価値も、死ぬ価値も、ただそれだけで見るなら、その有り様を見るなら、同じようなものだと思う。

誰にとっての、誰のそれがわからない限りは。

生きることと死ぬことも、生きなければ、つまりは産まれなければ始まらない。

(多分、) 生命の原始は世界の流れだったのだから、今現在も生命は現象であるから、ただ動くだけなら、そよと吹く風。それと変わらない。

生きることも、死ぬことも、状態と行為だけなら、ただそれだけのものだ。

きっと科学が解明してくれる。

価値は何かと問い出したら、そんなところはさして重要じゃない。

死にたいと言っている人に生の素晴らしさは、その価値はなかなか伝わらない。私は誰かがそれを語るときいつも考える。

「それは誰の命？誰にとっての価値？」と。

それに対して共感できない訳じゃない。ただ共感はナイフだから。言葉から切り出して、それが身になるか否かは、食べるか否かは、共感とは別だから、それまでのもの。

本当に生きたいと願うならば食べるけれど、多分、大抵の死にたいと願う人は違うだろう。

何という甘えだろうと思ってしまうけれど、どうしようもない。

私は死にたいと思っても、なお一層生きたいとも思うから、必死に考えつつ生きる。私の欲しい生は、

その価値は私にしか積めない。

死の価値は詰められない。

絶対的な生の終わりは、生の延長線上にあっても、本人の思う自身の死は生であって、本物は当然体験されない。

それらを比べていくら生の価値が低くとも、自分にとっての本物の価値を、意味を積めるのは生だけだと私は私自身に感じるのです。

そう感じる限り、私は生きたいと願うことを、生きよつとすることをやめないでしょう。

(後書き)

私の言葉はわかり難いと評判です。なかなか気を付けていても、直らないので感想・質問をくれるとありがたいです。精進します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9082j/>

等価値なる過程と結果

2011年10月6日18時57分発行